

第7課 「霊の結ぶ実は善意」 2月13日

安河内アキラ

暗唱聖句：

「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備して下さった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」エフェソ2：10

今週の聖句：

詩編51：12、ヨハネ14：9、ヘブライ1：2, 3、ローマ3：12～20、  
ローマ7：7～12、テトス2：14

今週の研究：聖書においては「善意」は正しい態度を示すことではなく、その反対の悪を避けることも含みます。善意は信心の実践です。善意は行動です。そうでなければ、それは全く「善意」ではありません。

月曜日：人生の悲しい事実ですが、非常に有能で多才な人、魅力的な人、カリスマ的な人、高度な技術や洞察力を備えた人で、人々から「善良」とみなされていながら、実際は心の底まで墮落した人がいます。

「愛」という言葉と同様、「善良」という言葉は、軽々しく、安易に用いられるあまり、その真の意味を失っている場合があります。神の善意をつねに念頭におくなら、人間の善意が実際にどのようなものであるか、またどのようなものであるべきかを、もっとよくりかいすることができるはずです。

火曜日：私たちはときどき律法を禁止令---「あなたは～してはならない」---のように考えます。ある意味で、これも真理です。しかし、してはならないことよりも、できることのほうがはるかに多くあります。

神の律法を守ることからくる実際的な利益も多々あります。神の律法はこの世における私たちの生活の質を向上させてくれます。神が禁じられているものは結局、私たちの益にはならないのだと考えるまでに、神の善意に信頼できるようになりたいものです。

木曜日：私たちは文字通り聖書的意味において「善なる」者となることができます。それは、私たちに救われる価値があるという意味での「善なる」ではなく、むしろ私たちの心と動機、行いが私たちの仕える神を世にあかしするという意味での「善なる」です。

確かに、それは自己に死ぬこと、喜んで人に仕えること、日ごとの肉欲と闘うこと、失敗したときにへりくだって心から悔い改めることを要求しますが、それでも私たちは自分の告白する信仰を実践することができるし、またそうしなければなりません。